

★講演の概要

藤本さんには、自身が代表を務める新聞社設立のきっかけやその活動を通して、子育ての現状やあり方について、愛情たっぷりにお話いただきました。



子どもがはじめて笑った日、
はじめて歩いた日・・
はじめての日を覚えていますか？

子育てが辛くなった時、我が子からもらった感動を思い出したら、きっと笑顔になれるはず。

子育てに追われ、社会で居場所をなくしがちな母親こそ一人の女性として夢を持ち、自信をもって子育てを楽しみましょう。

★講演の要旨

プロフィール

1956年久留米市出身、横浜市在住。全日空客室乗務員として勤務後結婚、3女のお母さんです。そして、孫が2人います。6年半ほどの客室乗務員時代に行ったアジア諸国の貧困、子どもが外国人に物乞いをする姿に突き動かされ、「もっと勉強をしたい」と慶応大学に入学。子育てをしながらようやく卒業するも「仕事」がない。子育て中の自分が社会から遠いところにいるような気がして、寂しくて、子育てサークルを始めました。普通のお母さんが色々な人と出会って話しを聞き、文章にして、表現することを繰り返し、やがて会社を興すまでに成長しました。

1 これまでの活動について

新しい価値をつくる。今までの常識を崩す活動をしてきました。

○大阪の教育情報誌の作成

5年間、普通のお母さんたちが発信する教育情報誌をつくりました。

○コミュニティづくりのお手伝い

都会に5千世帯もあるような大きなマンションができたとき、そこでどんなコミュニティを築いていくのか。お母さんの感覚でまちづくりをしました。

○お母さんのビアガーデン

横浜のランドマークタワーで一日だけのイベントを開催。サントリーと協働で「7月30日7時30分に日本中のお母さんが、いつも頑張っている自分に、そして夢に乾杯しよう」というイベントビールを発売。2,000ケースが完売しました。「イベントビールが非常においしかった」「女性が飲みやすい」という感想をもらったけど、実は普通のモルツ。特別に設けた日に、頑張っている自分に乾杯できるビール。まさにお母さんを応援しているビールだったから味が違うのです。

○ベーターベンコンサート

お母さんと子ども、特にマタニティーや乳幼児が対象のクラシックコンサートです。当時ホールにオムツを換える場所もなく、ホール内のベビーカーでの移動も大変だった

たりしましたが、いろんなことに配慮をしました。

内容はベートーベンの「田園」42分間のフル演奏です。プロデューサー側からは、「どうせ子どもには分からないから第1楽章、第2楽章、3.4飛ばして5にしましょう」と提案されましたが、「純粋な子ども、赤ちゃんだからこそ本物を」とフル演奏を強く依頼しました。でも、やはり赤ちゃんが42分じっとはしてられません。そこで「むづかったらおっぱいあげていいですよ」という話をして、30~40%のお母さんがおっぱいをしながら聴いたのです。まさに田園の風景がそこにあるような、素晴らしいコンサートになりました。

○家庭保育園

最近では、行政が待機児童対策で実施している「家庭保育」ですが、それ以前に、「お母さんたちのしたい仕事、夢の一つを実現しよう」「地域で、子育てをしながらできる仕事」として選んだのが「家庭保育」でした。横浜、東京、千葉で150軒ほど。みんな違う保育園。経営方針も時給も違う。ピアノや英語を教える所やおいしいご飯が売りの所。社会から孤立していたお母さんが社会に出て、自分の特技を活かした事業をして、地域がつながっていきました。

○お母さん大学

これは3年前からはじめた事業です。情報が氾濫しすぎている今の社会。お母さんが本当に必要な情報とは何だろうと考えることがたびたびあった。

子育て情報誌といえば、子連れで行ける場所、一緒に楽しめるレストランの情報など。売れる情報誌といえば、子どもの褒め方、しかり方、お受験情報。でも、私はフリーペーパー等の正しいのか分からない情報やマニュアル的なものはもういらないと考えて、「お母さん業界新聞」をリニューアルしました。母が母であることを感じる、お母さんはすごいということを感じる「お母さんの心」のつまった情報誌を作っています。

お母さん大学は、入学した千人ほどのお母さんたちが、この情報誌「お母さん業界新聞」に、日々あった事、たわいもないけど、どこにもない普通の情報を発信することでいろんなことを学ぶという形のない大学です。

「子どもの不登校について」記事が載る、すると「子どもだってたまには学校に行きたくない時あるよね」とか「うちのケースは・・・」とか、誌面のなかで色んなことを話し合っで学んでいきます。ここでは、先輩のお母さんや経験者たちがアドバイスをして学んでいくから、先生もアドバイザーもいないのです。

2 子育ての問題点

○お母さん力

「ワークライフバランス」という言葉が使われるようになり、次世代育成支援対策推進法もでき、企業も子育て支援に力を入れるようになってきました。色んな子育て支援の拠点ができたり、託児つきの子育てセミナーが当り前になりました。制度はどんどん充実してきたけれど、反対に、支援をしてもらうことが当り前になって、お母さん力はどんどん弱くなっている。

では、どんな情報を与えればいいのか？といったら、一言、一つだけです。

「お母さんすごいね」って、子育てしている母親を評価してあげることです。お母さんは命を産み育てるという大事な仕事をしているわけですよね。まさに次世代育成です。今の子育てがちゃんとできていれば、10年後、20年後には企業にも素晴らしい人材がやって来るわけです。なんとなく形ばかりな現状があって、もっと本質、子育ての本質は何かということを考えなければいけない時代がきているのです。

○お父さんの子育て

企業における支援も、ちょっと発想を変えて、「いい仕事をするため」ではなく、「いい子育てをするため」に企業がどうサポートできるのかという発想に変えてみる。子どもを持つ従業員が、自分の子どもに誇りのある仕事をしていると言えない、こんな仕事をしているんだと言えないなんて、恥ずかしいことですよね。イクメン、育児をするお父さん。私は、お父さんがお母さんと同じことをしなくてもいいと思っています。男性には男性ができる子育てがあり、女性ができる子育てとは違うと思うのです。むしろ、お父さんがどんな仕事をしているのか。仕事って生き方だと思うので、そういう仕事や生き方をいかに子どもに伝えていくかってことが大事じゃないのかなと思います。

3 ワークライフバランス

○少し視点を変える

社会においての子育てに対する評価はとても低い。社員にもし「お母さん」がいたら、お母さんであることを認めてあげてください。「お母さんてすごいね」って。夫婦の間でも、旦那さんが奥さんの不安やつらさに寄り添ってあげるだけでいいのです。それがきくとお母さんが安心できることなのです。子どもが1歳ならば、お母さんも1年生。そんな時に社内の子育ての先輩が「うちのときは・・・」とか「こうすると失敗するよ」と話をしてあげることによって会社の空気は全く変わっていくんですね。

皆さんの会社では、社員同士夢を語っていますか？今は夢を語るどころか、普通の会話さえパソコンのメールでやり取りをする時代です。夢ってすごい情報だと思うんですね。お互いの夢の話を会社でしたら、会社の空気が変わっていくんじゃないかなと思います。目にみえないものが大事なのです。

○本当のワークライフバランス

私の新聞は、目に見えないものを伝えています。今のお母さんたちは、**欲しいものは情報ではなく、心のよりどころ**だと言います。

それさえあれば、どんなに大変な子育ても乗り越えられるのです。子育ては大変で当たり前なのです。だって、人間を産み育てる素晴らしい大仕事をやっているのですから。そんな素晴らしい仕事をしているお母さんたちに自信がないことが一番の問題なのです。世の中は豊かになり、だんだん便利になって、物に困ることはないですよね。でも、豊かになってなくなってしまったものもある現代社会。子育ての支援も充実すればするほど母力を弱くしていきます。

便利になった社会を元に戻すことはできません。でも、人とは何か、人間と何か、母親とは、父親とは、ということの本気で考えることが、本当の意味でのワークライフバランスなのではないかなと思います。

4 本当の子育て支援

○いい子育て

ここで、1曲紹介したい曲があります。「はじめての日」という、はじめての赤ちゃんの胎動を覚えていますか？はじめてランドセルを背負った日を覚えていますか？と、はじめての日をもうしつこく書いた曲です。この曲を書いたきっかけは、新聞ばかり作ってきて、自分があまりいい子育てをしてこなかったから。自分の子どもたちはこれで良かったのかな、子育ては良かったのかなと振り返ってできた曲です。

生前、小篠綾子さんにインタビューをしたことがありました。小篠さん曰く「余計な子育てをしたらだめだよ。子どもは放っておいても真っ直ぐ育っていくようになっていくんだ。あなたたちが余計な子育てをするから曲がっちゃうんでしょう。放っておきなさい。ただ信じてあげることだけだよ。あとはお母さんとお父さんが生き方をみせることじゃないの」と。それを聞いて、「そうだなあ。余計な子育てをしているかもな。あそこの学校に入れたいとかクラスで一番にさせたいとか・・・」と思ったことがありました。

○お母さんの心

「お母さん」という言葉、意味、それが社会に地域に広がっていくことがとても大事なのではないかなと思います。「お母さんの心」があれば、変なもの作れないし、子どもが悲しむようなことはできないはず。そして、お母さんの笑顔はこれから結婚する若い女性も笑顔にします。残念ながら今の母親を見て、結婚してお母さんになりたいとは思えないのです。お母さんになったら、損しちゃう、夢も持てない、自分の時間も取れない、仕事もない・・・。

お母さんの心というのは、決してお母さんだけが持っているものではなくて、男性にもあるんです。若い人達が、早くお母さんになりたい、早くお父さんになりたいと思う社会を地域みんながつくっていく必要があるんじゃないのかなと思います。

また、企業が地域とどうつながっていくのか。地域には、じいちゃん、ばあちゃんもいます。じいちゃん、ばあちゃんの力って大きいですね。じいちゃん、ばあちゃんが企業とどう連携していくのかということも、とても大事だと思います。

○これからの活動

「おばあちゃん仮説」をご存知ですか？アメリカの学者が立てた学説ですが、人間の女性は、自分の子育てが終わったらもう一回、地域の子どもや自分の孫に子育ての知恵や情報を伝える役目があるから長生きさせてもらっているという説です。私も54歳で2人の孫のおばあちゃんなので、これからも新聞をつくりながら、でも余計な情報誌はつくらなくて、とにかく「お母さんの心」を伝えながら、地域の子どもが笑顔になっていくような仕事をしていきたいと思っています。

今日は、私流のワークライフバランスの話をさせていただきました。ありがとうございました。